

明るさのみられる収入見通しと、鈍い消費マインドの回復

～第51回熊本の消費予報調査－2024年5月調査～

研究員 財津 孝永

はじめに

当研究所では、毎年5月と11月に県内在住者を対象として、今後半年間における「収入」「支出」等の調査を行っている。本稿では本年5月に実施した調査結果を基に、県民の消費マインドの見通しを明らかにする。

本調査では、収入見通し、支出見通しのいずれも前回から上昇した(図表1)。収入見通しの上昇には、県内にも広がる賃上げが寄与したものと考えられる。また、支出見通しについては、長期化する物価高騰により支出を増やさざるを得ない現状が改めて明らかとなった。

【調査の概要】

1. 調査対象：熊本県在住の20歳以上の男女
※20代男性の不足分は、年代の近い30～40代にて補完。
2. 調査期間：2024年5月17日(木)～5月20日(月)
3. 調査方法：調査会社登録モニターへのネット調査(調査会社：(株)マクロミル)
4. 有効回答：1041人

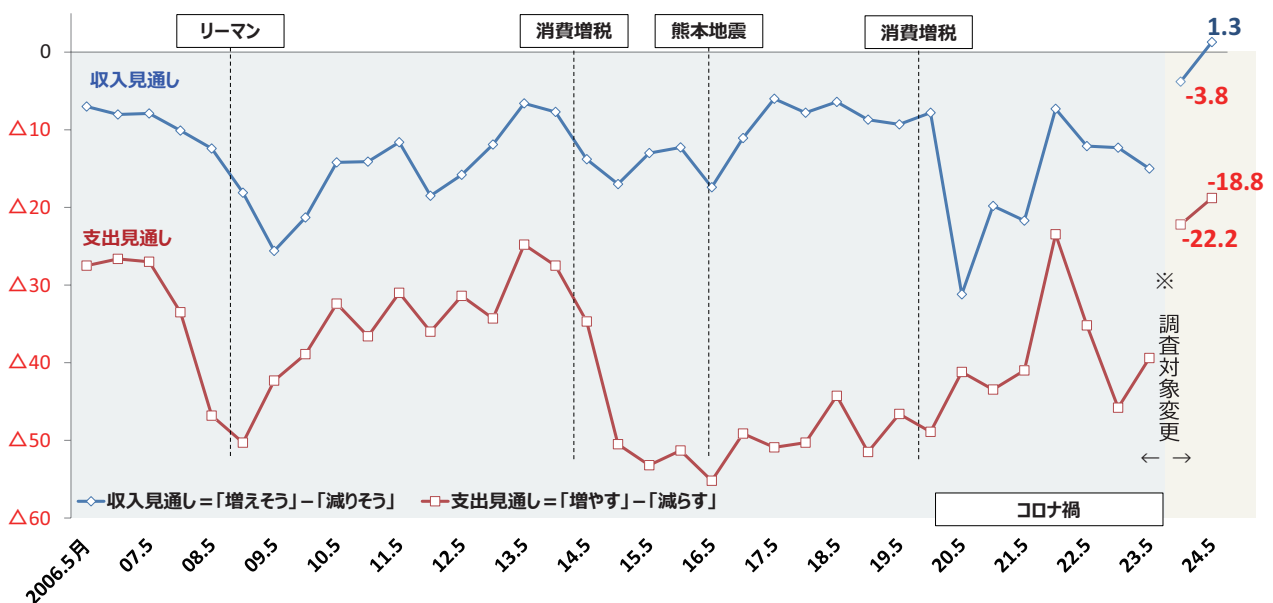
【回答者の属性】

年代	実数(人)		構成比(%)	
	男性	女性	男性	女性
20代	52	104	10.0	20.0
30代	127	104	24.4	20.0
40代	134	104	25.7	20.0
50代	104	104	20.0	20.0
60代以上	104	104	20.0	20.0
合計	521	520	100.0	100.0

図表1 今後の見通しDIの長期推移

収入見通しDI(「増えそう」－「減りそう」と支出意欲DI(「緩める」－「引き締める」)

(DI = 「プラス」回答の割合 - 「マイナス」回答の割合)



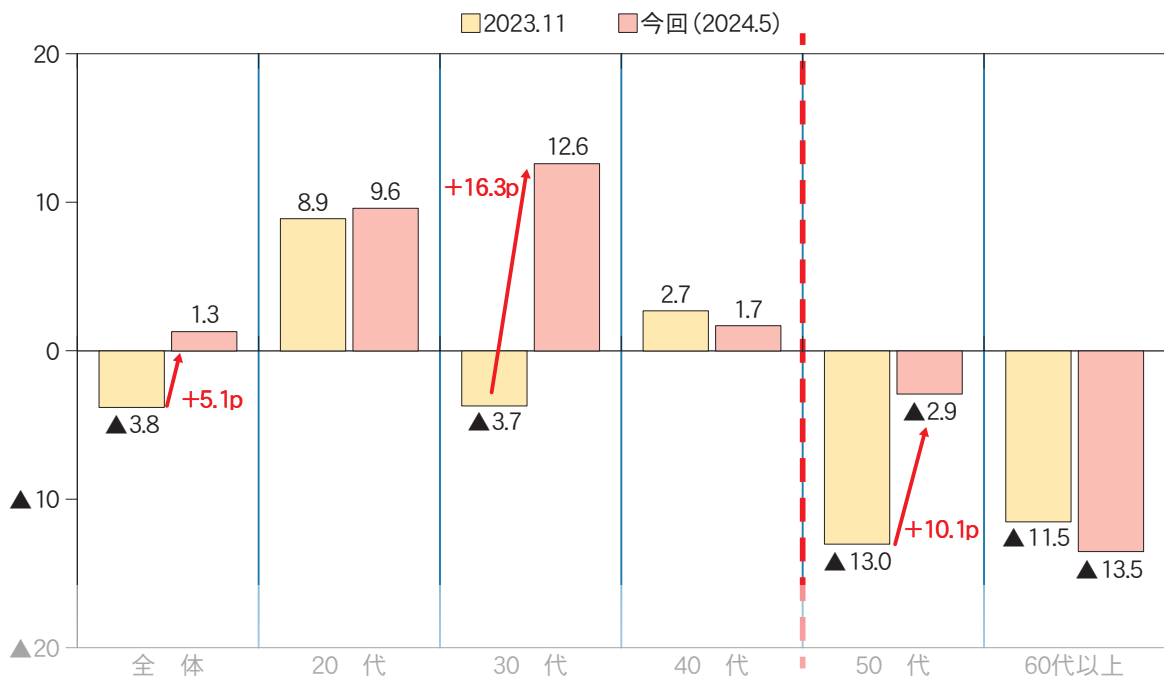
※2023年5月調査まで調査対象は女性のみ、以降は男女

1 収入および支出の見通し

(1)収入見通し

- 今後半年間（2024年5月～11月）の収入見通しは、1.3と前回（▲3.8）から5.1ポイント（以下、p）上昇し、プラス域となった（図表2）。
- 年代別では、30代が12.6と前回（▲3.7）から+16.3p、50代が▲2.9と前回（▲13.0）から+10.1pで上昇幅が大きくなっている。
- 「40代まで」は収入見通しDIがプラス域である一方、「50代以降」はマイナス域となっており、特に若い世代に賃上げの恩恵が及んでいると考えられる。

図表2 収入の見通しDI（「増えそう」）-（「減りそう」）



収入見通し	年代	性別	コメント
増えそう	20代	男性	昇給が大きいから
	20代	女性	仕事を始めるから
	30代	女性	昇給が大きいから
減りそう	40代	女性	基本給が上がったため
	50代	男性	進とベースアップがあったため
	50代	女性	基本給が増える
	30代		
	60代以上	男性	年金が削れたから

以降は会員専用ページにて公開しております。

ご覧頂くには、入会手続き後、会員専用ページよりアクセスをお願いします。

[ご入会はこちらから](#)

(入力は数分で終わります)

[会員の方ははこちらから](#)